

## 伝えよう！「6年間の自分の思いを」

—「思い出の品CM作成プロジェクト」を通して—

宮崎県都城市立高城小学校 教諭 水野 宗市

souiti@js4.so-net.ne.jp

キーワード：CM、6年生、相手意識、静止画、総合的な学習の時間

### 1. はじめに

卒業を控えた子どもたちに、これまで取り組んだICTを活用した学習内容を取り入れながら、小学校生活を振り返り保護者への感謝の気持ちを表現させたい・・・本実践を取り組むに当たっての一番の思いであつた。

本校児童の実態として「自分の考えや思いをしっかりと表現できない（はづかしい、消極的である、内容を整理していない、相手を意識していない）」という点があげられる。その原因として、これまで学習の中であり「表現する活動」を行っていないこと、伝えたいという意欲に欠けることを感じている。そこで、情報教育の視点より、「さまざまな情報手段を活用して、効果的に表現する」「伝えたいことを明確にして、相手にわかりやすく伝える」ことを目標に、「自分の思いを持った学習活動」を実践することで表現力向上につながると考えた。特に、年間を通じて「CM作成学習」を計画し、表現活動に取り組むこととした。

伝える活動を計画するにあたり、重要なポイントとして「相手を意識する」「自分の思いを効果的に表現する」「自主的な活動になるような工夫をする」ことが大事であると考えた。卒業を控えた6年生児童に、保護者への感謝の気持ちを伝える活動を実施することで高い学習意欲をもち「相手（保護者）を意識し」「自分の思い（感謝）を伝える」ことができると考えた。普段の児童の様子を見ると、保護者に対して感謝の気持ちはあるものなかなか素直に言葉にできていない。その思いをICT機器を活用し、30秒程度のクリップビデオにまとめ保護者に伝えることを目標とすることで、児童は興味・関心を持ち自主的な活動を行うと共に、様々な表現方法を習得することにもつながる。そこで、6年間での「保護者との思い出がある品物」を考え、その品物についての3枚の写真を撮り、その写真にメッセージを付け加え、ビデオとして制作し、参観日で発表することとした。特に、重点をおいたのは、「どんな画像を撮るか」と「どんなメッセージを考えるか」ということである。

### 2. 研究の実際

#### 2. 1 本実践のねらい

本单元の目的や本実践で育成したい力を「表1 計画の概要」のように整理した。情報教育の観点から、火曜の会の「情報教育の目標リスト」を参考にしながら作成した。

保護者への感謝の気持ちを「伝える内容の中心」として、ICTを取り入れながら、表現活動を行うことで

「情報活用の実践力」「表現する力」の育成を行うこととした。

単元名：【「思い出の品」CM作成プロジェクト】
○ 6年間の保護者への感謝の気持ちを伝えるために、保護者との「思い出の品」を選んで、その品物とメッセージを通しての作品（CM）つくりを通して、情報活用の実践力・表現する力の育成するとともに、情報モラルの指導を行う。
◆本单元で育成を目的としている力（情報活用力）・（表現力）
【情報活用の実践力・表現する力】
【情報表現およびコミュニケーション】
○ さまざまな情報手段を活用して、効果的に表現する ・相手に効果的に伝わるように、順序を整えて表すことができる。 （CM原稿・順序） ・伝えたいことに応じて表現の仕方を工夫する。 （メッセージ） ・他の人にわかりやすい表現方法を知る。 （CM作成、メッセージ、画像）
【課題解決における情報活用】
○ 自ら課題を見つける見通しを持って活動することができる【問題の発見と計画】 ・自分の手で活動計画の要点をわかりやすくまとめる。 （CM作成計画）
○ 集めた情報を分析し、適した方法でまとめることができる【整理・分析・判断】 ・画像にあったメッセージを考え、情報を収集・整理する。 （CM作成計画）
○ 伝えたいことを明確にして、相手にわかりやすく伝える【表現する力】 ・順序を考え、相手にわかりやすく整理して発信する。 （CM原稿、メッセージ） ・メッセージを使って、情報・意見を適切に伝える。 （画像撮影、CM作成）
【情報手段の適切な利用】
○ 目的に応じて、情報手段を使い分けることができる。 ・文字や画像や音声を、編集する。 （CM編集）
【情報モラル】
【情報に対する態度】
○ 情報と具体的にかかわろうとする ・他の人の情報をもとに、自分の情報を改善できる。 （グループ活動）
【情報モラル・情報発信の責任】
○ 情報モラルの大切さを受け止め、主体的に行動できる ・自分の発信した情報に責任を持つ。 （発表会）

表1 実践の概要

#### 2. 2 CMの工夫を捉えよう

年間を通じて、「学校紹介CM」と「思い出の品CM」という2回のCM作成活動を計画した。「学校紹介CM」では動画を活用したもの、「思い出の品CM」では静止画を利用したもので作成することとした。

CM作成にあたり、まず「CMの工夫を捉える」学習を行った。家庭で実際のCMを見る時間を取りたり、教師の方で準備したCMを見たりした。その中から、CMの工夫として、次の点に着目させた。

- 短い時間で伝えたいことをきちんと伝える
- 的確な言葉を活用する
- 映像にあった言葉、心に残る言葉を使う

これにより、CM作成に当たってのポイントを整理することができると共に、ゴール（制作物）に対するイメージを持つことができた。

#### 2. 3 「3枚の写真」とメッセージで伝えよう

思い出の品CM作成にあたり、保護者に対する自分の思いを焦点化するために、作成に関して次のような点について規制することとした。

- 思い出の品物を1つとすること
- 1つの品物を3枚の写真で表現すること
- 40秒程度の時間とすること

のことにより、ただ思い出の品物を撮影するだけでなく、保護者との思い出は何であり、それが品物のどこに表れているのかを考えることにつながった。ま

た、その写真に表れている気持ちをメッセージと共に伝えることとした。

3枚の写真的概要としては、基本的に1枚目はその品物全体、2枚目はポイントになる部分のアップ、3点目はさらに伝えたい部分とした。3枚の画像を撮るにあたって、「アップの部分」を考えたり、「角度を変えた撮り方」を工夫したりしていた。デジタルカメラで様々な写真を撮り、その中から必要な画像を選んでいた。また、机などの大きな品物は、家で撮影した。

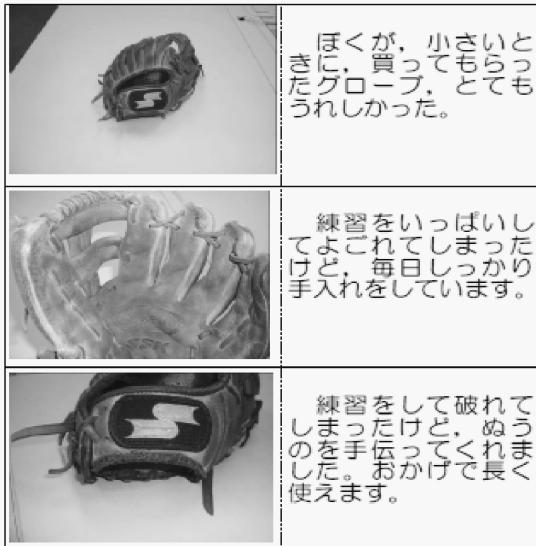


図1 3枚の写真とメッセージ

そして、各写真にあったメッセージを考えるようにした。その中で、保護者と自分に関係する内容（思い出）を取り入れながら作成することとした。児童は、これまでの小学校生活を振り返りながら、保護者とのいろいろな思い出を考えることができた。その中から何を選ぶのか、その品物を通して保護者にどんな気持ちを伝えるのか、一人一人が真剣に考えていた。

今回BGMを活用した。その際、あらかじめ教師の方で、曲の長さを40秒程度にしておいた。それにより、ビデオの長さを意識しながら作成することができた。時間にあわせて、画像の表示する長さを設定したり、メッセージの見せる時間を決めたりした。

## 2. 4 様々な伝え方を工夫しよう

今回、CM作成ソフトとして「Windows ムービーメーカー」を使用した。構成としては、「タイトル」→「3枚の写真」→「最後のメッセージ」とした。その中で、様々な表現方法を取り入れることができた。

- 画面の切り替え
- メッセージの表し方
- 文字の形や色、背景色との関係

上記のような効果について、パソコンの特性を活かし、何度も繰り返し確認しながら活動を進めた。どのような表し方をすることが一番いいかを自分なりに工夫しながら進めた。自分の思いを伝えたいという意識から、児童は主体的に活動を行うことができた。

学習後半には、ぞれぞれの作品を見合う時間を確保

し、お互いの作品を客観的に判断する活動を行った。その際、相手の作品の欠点を見つけるのではなく、「どんなところが良いか」「どこを工夫するとより良くなるのか」という視点で、相手の作品を見るようにした。文字の色や背景色との色の組み合わせなどの視点もあったが、メッセージの内容についてのものが多くかった。パソコンを活用して視覚的に様々な工夫ができるが、「伝える」ことにおいて大事なのは言葉であることを実感することができた。また、他の児童の作品を見ることで、自分の作品との違いを感じることができ、自分の作品の修正をすることができた。

## 3. 考察

### 3. 1 アンケート結果より

- 自分の気持ちが上手に伝えられた・・・75%
- 作品に満足している・・・・・・・90%

アンケート結果からは、学習を通して概ね満足した結果が得られた。「自分の気持ちが上手に伝えられた」という問い合わせに「十分でない」と判断した児童を抽出してみると、理解力が高い児童や学習意欲の高い児童が多く、「よりよい表現をしたい」という思いが高まったものと考えられる。

また、「活動の中で何が難しかったか」という問い合わせには、「メッセージを考えること」が一番多かった。画面上の問題もあり、あまり小さい文字にすると見づらいため、「いかに短い言葉で表現するか」ということが求められたので、その点について苦労を要した。しかし、言葉を選びながら、どの言葉が一番伝わるのかを考えるには、とてもよい学習であった。次いで、「写真の撮り方」が、あがっていた。これも文章と関連した3枚の写真をどう撮ればいいか、児童が悩んだ点だったと思う。機器操作について難しいと判断する児童はほとんど見られなかった。

### 3. 2 発表会を振り返って

最後の参観日で、「思い出の品CM」発表会を行った。発表会では、CMを見る前に、作品だけでは十分に書けなかった思いを含めて「作品に関する思い」を話してから視聴するように工夫した。中には、思いが高まり泣きながら話をする児童も見られた。また、作品を視聴して涙する保護者の姿も見られた。参観日後の保護者の感想には、「普段、言葉では言わないが、考えていることがわかりうれしかった」「親子で思い出の品物を通して小学校生活を振り返ることができた」「我が子の作品だけでなく、他の子の作品に本当に感動した」などがあった。

### 3. 3 今後の課題

今回の実践を行い、子どもたちが活用した言葉で一番多かったのが「ありがとう」であった。この言葉をどのタイミングで効果的に使うか、または、「ありがとう」を使わずに表現しようという活動に取り組むことも大事であると思う。また、日常より様々な表現に慣れ親しむ活動を充実し、語彙力を高め児童の表現をより向上させる必要を実感している。